

令和3年度第2回 国土交通省航空局 入札監視委員会 審議概要		
開催日及び場所	令和3年12月16日(木) オンライン形式による開催	
委員	委員長:橋爪 宏達(国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授) 委員:江川 淳(日本橋江川法律事務所 代表弁護士) 委員:平田 輝満(茨城大学大学院理工学研究科 准教授)	
審議対象期間	令和3年4月1日～令和3年9月30日	
工事	0 件	
建設コンサルタント業務等	1 件	
役務及び物品	2 件	
地方官署 工事・一般競争	0 件	
合計	3 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

(別紙) 委員からの意見、質問、それに対する回答等	
意 見 ・ 質 問	回 答
<p>【建設コンサルタント業務等】 一般競争 「衛星航法予測・監視装置整備にかかる認証作業」</p> <p>○現在では、常時衛星が日本上空を飛んでいるが、必要な業務なのか。</p> <p>○認証作業を行う「独立した第三者」の定義を教えてください。 また、以前の入札で参加していた事業者は受注者と同じような業界団体だったのか。</p>	<p>○航空機におけるGNSSの利用が広がっており、出発から到着までGNSSを利用したいという要望もある。それぞれのフェーズで精度・信頼性が完全とは言えず、現時点では、すべて賄うことができず、補強作業は必要な状況です。</p> <p>○以前の入札では、今回の受注者と民間企業での競争となっていた。 第三者について、明確な定義はなく、発注者・システム開発者以外の第三者であれば、問題ありません。</p>
<p>【物品の製造】 一般競争 「国際航空運送事業等に係る申請等のオンラインシステムの構築及び調整」</p> <p>○落札率は高くないが、特殊なシステムとも言いがたい。何か事情は考えられるか。</p> <p>○調整作業は、どのような業務になるのか。</p> <p>○今回の受注者以外が参加できるような汎用性はあるのか。</p>	<p>○それほど高度なシステムではないため、入札説明書は4者取りに来ましたが、それぞれにヒアリングを行ったところ、国際航空の申請手続きに慣れていないことや、技術者の確保が難しかった等で入札に参加しなかったとの回答でした。</p> <p>○装置の試験や確認を予定しており、来期はシステムの改修を計画しています。</p> <p>○作業自体は難しい内容ではありません。また、システム構築の際に受注者に権利が属さな</p>

<p>○国際線を取り扱うことにリスクを感じたのであれば、より十分な説明が必要になるのでは。</p>	<p>いよう整理しています。</p>
<p>【役務の提供】 一般競争 「令和3年度空港管制処理システム（TAPS）アプリケーション保守」</p> <p>○システムの納入業者が参加・落札しやすい状況は自然な流れとも取れるが、他の事業者が興味を示したことはあるのか。</p> <p>○今回のシステムは国内に一つしかないのか。</p> <p>○他の事業者が新たに参入することは難しいのか。</p> <p>○金額が大きいので、小分けにすることはできないのか。</p>	<p>○示されたことはないが、航空局からヒアリングを行っている。</p> <p>○別に防衛省で発注したものがあり、別の事業者が受注している。</p> <p>○リアルタイム性を確保できれば、どの事業者でも問題ありません。</p> <p>○現時点では、考えておりません。</p>
<p>【抽出案件以外】</p> <p>○「無人航空機検知システムの製造（製造・設置・調整）」は、低入札価格調査となっているが、その後の対応はどうなったのか。</p> <p>○参加者の有無を確認する公募手続きを行った契約方式（企画競争契約方式へ移行しなかったもの）について、手続きの流れを教えてください。</p> <p>○「ノートパソコン30台の購入」について、一者応札の理由を教えてください。</p>	<p>○調査の結果、応札者の企業努力によるものと判断し、契約を締結している。</p> <p>○公募の手続きの結果、参加者がいれば、競争契約に移行し、参加者がいなければ、特定の事業者と随意契約を締結することになります。</p> <p>○航空保安大学校での発注案件のため、経緯を確認し、次回の委員会で報告します。</p>